



発芽期から 6 月上旬までは、黒星病・黒点病等の重要防除期間です。黒星病の一次感染は、開花前後がピークとされています。この期間に低温・降雨（長い濡れ時間）が続くと越冬病菌からの一次感染が拡大し、果実感染の要因となります。

黒星病等の一次感染予防のため、発芽 10 日後の薬剤散布を進めてください。併せて、昨年うどんこ病の発生が多かった園では下記を参考にして早めの予防散布を実施してください。

りんご

◆ ふじ生育状況調査（調査地点：平岡若宮）

年度	発芽	開花	満開
平年	4 / 4	5 / 2	5 / 5
H 2 5	4 / 1	5 / 2	5 / 6
H 2 6	4 / 3	5 / 2	5 / 3
H 2 7	3 / 3 1		

3 月末の高温により、昨年より 3~4 程度日早く発芽が確認されました。本年は融雪が早かったこともあり、南北の生育差は小さい状況です。

このまま日中の高温が続く場合は、ふじの開花は昨年より早まる見込みです（4 月末頃）。次回の開花期の薬剤散布も遅れないように準備を進めてください。

【発芽 10 日後の薬剤散布】

散布時期：4 月 10~15 日頃 *注意事項③参照
 散布薬剤：水 100 リットル
 展着剤 10 ml
 トレノックスフロアブル 200 ml *③参照
 対象病虫害：黒星病・黒点病・（うどんこ病）
 10 アール当り散布量：350 リットル

【注意事項】*必ずお読みください。

- ① 収穫中の他作物等への飛散に注意してください。
- ② 低温等により、展葉等が遅れていても、左記の散布時期を目安に散布する。
- ③ 昨年度うどんこ病発生園は、コロナフロアブル 400 倍（4 回以内）を加用する。うどんこ病の感染は発芽 10 日後から活発になるので注意する。

◆ 散布日： 月 日
 ◆ 散布量： リットル

◆ 次回（開花直前）の薬剤散布予定
 ふじの開花直前：4/25~5/2 頃

【黒星病の発生生態と生活史】（長野県果樹指導指針より）

① 発生生態

本病菌は被害落葉・芽りん片・枝病斑で越冬するが、量的に重要なのは被害落葉である。被害落葉上では冬期間に偽子のう殻が形成され、早春に成熟し発芽期頃から子のう胞子が飛散して感染が始まる。子のう胞子の感染適温は 15~20℃で、この温度での潜伏期間は約 10 日である。

一次感染は開花前後がピークとなり、落花 20 日後頃まで続き、その後は病斑上に形成された分生胞子により二次感染が続く。菌糸の発育適温は 16~24℃で、分生胞子の発芽適温は 15~25℃である。

感染の条件として降雨と密接な関係があり、雨が多い時また葉がぬれている時間が長い時に感染しやすい。温度 10~20℃で感染しやすく 1~2 週間で病斑が現われる。

